

令和 8 年度

「運営に関する計画」

中間評価

大阪市立東粉浜小学校

令和 8 年 1 0 月 2 3 日

大阪市立東粉浜小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90.0%以上にする。 (令和 7 年度⇒89.5%) ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87.1%以上にする。 (令和 7 年度⇒87.0%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容① 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ・いじめや不登校など配慮が必要な児童の問題解決について、各学級担任・生活指導部長・人権教育主担・インクルーシブ教育主担・養護教諭・管理職が連携して組織的に、かつ、状況に応じて S C や S S W など外部機関とも連携しながら丁寧に対応していく。 ・いじめ (いのち) について考える日や道徳授業において、いじめ (いのち) について深く考える授業を行う。	B
指標 ・配慮や支援の必要な児童について、いいとこみつけ・スクリーニングシートを活用するとともに、共通理解の場を月に 1 回設ける。 ・いじめ (いのち) について考える日や道徳授業において、学期に 1 回以上いじめに関する指導を行い定期的にいじめ (いのち) について考える機会を設ける。	
取組内容② 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ・火災や地震・津波の避難訓練、引き渡し訓練、不審者対応訓練、救急救命講習会などを計画し、区役所、警察署、消防署などとも連携しながら、取組を進める。 ・子どもの意識を高めるため、防災学習に取り組む。	B
指標 ・避難訓練、引き渡し訓練、防災学習等、様々な状況を想定した命を守る学習を計画的に実施する。	
取組内容③ 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 ・日々の授業や学級活動、異学年との交流活動を通して、自分のよさに気づいたり、仲間に認められたりする場を設ける。	B
指標 ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87.1%以上にする。 (令和 7 年度⇒87.0%)	
取組内容④ 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 ・道徳教育の充実を図り、子ども同士が意見を交流することができる授業を展開するために、道徳教育推進教師による研修会などを活用して、学校全体での授業の方法や評価の在り方に対する理解を深める。	B

指標 ・ 1 日学校公開日を年間 1 回の「道徳の日」と設定し、その日の様子をホームページに公開し、保護者や地域に発信する。	
取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 ・ 芸術鑑賞、社会見学および講師招聘による体験的な学習を行う。また、学年や学級活動での体験学習を通して、情操を育む。	
指標 ・ 全学年参加の芸術鑑賞会を実施するとともに、各学年の実態に応じて社会見学・出前授業や体験学習(林間学習、修学旅行等)を行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 月 1 回、生活指導部会と兼ねてスクリーニング会議Ⅰを行うことで全クラスの実態やトラブルなどを全教職員で共有できている。また、子どもの異変があれば、早い段階でケース会議を開き、情報共有と関わり方などを相談しながら進めることができている。状況に応じて、SC や SSW など外部機関とも連携しながら組織全体で解決に向けて動いている。 5 月にいじめ (いのち) について考える日を実施したり、道徳の授業などを通していじめに関する指導を行ったりし、定期的にいじめ (いのち) について考える機会を設けている。 取組内容② 避難訓練、引き渡し訓練、防災学習等、計画的に進められている。防災学習は各学年の発達段階に合わせてそれぞれの学年で計画し、消防や地域の方とも連携しながら、参観で保護者にも公開することで意識を高めることができた。また、防災訓練、避難訓練を『命を守る学習』と位置づけ、それぞれ『命を守るために』『自分の命を守った後に、人の命が守れるように』ということを毎回対話している学級もある。 取組内容③ 生活振り返りカードにおいて「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 89.6%と指標を上回っている。週 1 回の縦割り班活動や、遠足での異学年交流、様々な学校行事など、異学年との交流を多く設けることで自己肯定感の向上につながっている。 取組内容④ 概ね計画通り実施できている。学校一日公開の日 (10 月 14 日) を「道徳の日」として設定し、指導内容を情報モラル教育に全学級で統一し、各学年の実態に応じた指導を行った。またその授業を保護者に参観してもらったり、ホームページに掲載したりすることで家庭・地域に発信した。また、道徳教育や道徳科の授業については校内研修や公開授業など深める機会を多く設けられ、道徳教育の充実が図られている。 取組内容⑤ 全学年を対象とした芸術鑑賞会を計画するとともに、各学年の発達段階や実態に応じた社会見学・出前授業や体験学習を計画的に実施することができている。特に、社会見学では、児童が目的意識をもち、見学先で主体的に学ぶことができるよう工夫したことで、自ら学びを深める社会見学につなげることができた。また、体験後には、児童から自発的に感謝の手紙を書きたいという声上がるなど、学びを支えてくださった方々への感謝の気持ちををはぐくむことができた。	

年度末への改善点

取り組み内容①

今後も継続し、教職員間、外部機関との情報共有や、実践的な安全指導を充実させ、児童の安全確保と安心できる学校環境づくりを進める必要がある。

取組内容②

避難訓練は休み時間の実施など、様々な状況を想定した訓練ができていないため、どのように実施するかなど前年度の計画が必要である。

取組内容③

今後の縦割り班活動において継続して多く行っていき、更なる向上としてグループ活動で仲間を認め合える声かけ指導や、ありがとう集会など学校行事で良いところを引き出していけるような場の設定を設けていく。

取組内容④

今後も道徳教育全体計画の基づいて、継続して道徳教育の充実を図る。

取組内容⑤

今後も、各学年の発達段階や教育課程との関連を踏まえ、児童の興味・関心や主体的な学びにつながる活動内容を工夫していくことが必要である。また、体験して終わるのではなく、事前学習や事後の振り返りを充実させ、学んだことの整理・共有することで、学習内容の定着と学びの深化を図っていきたい。

大阪市立東粉浜小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和 7 年度より 0.01 ポイント向上させる。 (令和 7 年度⇒3 年生: 0.92、4 年生: 0.99、5 年生: 1.10) ○小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和 7 年度より 0.01 ポイント向上させる。 (令和 7 年度⇒3 年生: 0.98、4 年生: 0.96、5 年生: 1.08) ○小学校学力経年調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 89.8%以上にする。 (令和 7 年度⇒89.7%) ○小学校学力経年調査における「規則正しい生活 (朝食を毎日食べること・毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること) が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 (令和 7 年度⇒なし)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・授業を担当する全教員が、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業研究に取り組むとともに、指導力を高めるため一人 1 回の公開授業を行う。	B
指標 ・生活振り返りカードにおいて、「授業で自分の意見を言ったり、友だちと話し合ったりするのが楽しい」の項目について肯定的に回答する児童の割合を 85.1%以上にする。 (令和 7 年度⇒85.0%)	
取組内容② 【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ・大阪府の体育応援・向上事業の取組や体力向上推進事業、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析も参考にしながら、体育科の学習時間内の運動量の向上、ならびに普段の生活の中で運動 (外遊び) する習慣が身につくようにする。 ・体育的行事やチャレンジ大会、がんばりカードの活用、校内での表彰等、児童の体力向上への意欲をさらに高めていく。	C
指標 ・生活振り返りカードにおいて、「運動 (外遊び) をした」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 94.5%以上にする。 (令和 7 年度⇒94.4%)	
取組内容③ 【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ・児童の規則正しい生活習慣が身に付くよう、「早寝早起き朝ごはん」をキーワードに、指導と啓発を行う。	B

指標 ・生活振り返りカードにおいて、「家で決めた寝る時刻・起きる時刻を守ろうとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 76%以上にする。 (令和 7 年度⇒75%)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取り組み内容① 一人一回の授業公開を計画的に実施するとともに、互いに授業を見合い、授業力向上に努めることができた。また、研究主題を意識して、これまで以上に発問を考えて授業するようになったという意見もあった。その結果、生活振り返りカードの「授業で自分の意見を言ったり、友だちと話し合ったりすることが楽しい」という項目における肯定的に回答は全校で 91.6%となり、目標を上回った。 取り組み内容② 生活振り返りカードの「運動（外遊び）をした」という項目における肯定的回答の割合は、全体で 90.6%となっており、目標値である 94.5%を下回っている。学年によっても差が見られ、積極的に外遊びを楽しむ児童がいる一方で、運動する機会が十分に確保できていない児童もいる。背景として、夏の暑さや熱中症警戒アラート、雨天などの影響により、運動場で遊ぶ機会が制限されたことが考えられる。また、外遊びをする児童が固定化していることも課題であり、体育の授業や休み時間など、日常的な活動の中で、すべての児童が体を動かす機会を確保していく必要がある。 取り組み内容③ 生活振り返りカードにおいて、「家で決めた寝る時刻・起きる時刻を守ろうとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は、全体で 81.5%であった。昨年度までは目標を上回ることが難しかったが、指標を上回ることができた。昨年とはアンケートの文言を変更したこともあるが、守ろうとしている意識は、前年度に比べてできているように感じる。しかし、遅刻してくる児童は固定しており、今後も家庭に向けた啓発を続けていく必要がある。	
年度末への改善点	
取り組み内容① 児童の主体的・対話的で深い学びをさらに充実させるために、引き続き校内研修を計画的に進めていく。特に、自分の意見を発表することに苦手意識がある児童が、安心して自分の考えを表現できるよう、ペアやグループでの交流・活動などの工夫が求められる。また、友だちの意見を聞くだけでなく、それをもとに自分の考えを広げたり深めたりできる学習活動を充実させる必要がある。 取り組み内容② 体育の授業では、児童が十分に体を動かせる時間を確保するとともに、楽しみながら主体的に運動に取り組めるよう、活動内容や指導方法を工夫する。また、なわとび週間やかけあし週間、運動委員会によるイベントなどを計画的に実施し、日常的に運動する習慣の定着を図る。さらに、係活動なども活用して運動の機会を増やすとともに、外遊びをする児童が固定化しないよう、普段あまり運動しない児童にも積極的に働きかける。気温や天候に配慮しながら、外で活動できる機会を有効に活用し、学校全体で児童の運動量の確保と体力向上につなげていく。 取り組み内容③ 学校保健委員会で早寝早起きと睡眠の大切さについて保健委員会が啓発活動を実施する予定である。学校医の参加もあり、指標達成の維持が期待される。また、生活振り返りカードにおいて、「毎朝、朝ご飯を食べている」の項目についても 95.6%であった。高い割合を保つために、今後も委員会活動や、保健指導、保健だよりなどを通じて、児童や家庭への啓発を続けていきたい。	

大阪市立東粉浜小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。 (令和 7 年度⇒なし) ○教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務を月 21 時間 04 分以下とする。 (令和 7 年度⇒21 時間 05 分)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 D X の推進】 ・主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を進めるとともに、一人一台学習者用端末や大型モニターなどの活用に努め、I C T を有効活用した授業を学年の発達段階に応じて推進する。 ----- 指標 ・学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。(令和 7 年度⇒なし)		B
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・勤務情報システムを活用しながら時間外勤務時間を減少させ、教職員の健康管理を推進する。 ・専科・教科担任制や S S S の活用、学校行事の精選や会議時間の短縮を図る。 ----- 指標 ・ゆとりの日や午後 6 時までに退勤する日を週 1 回以上設定する。 ・教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 21 時間 04 分以下とする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取り組み内容① 各学年で、ICT を活用した教材研究を行い授業に取り入れている。児童自らが調べ学習や発表するツールとして一人一台学習者用端末を活用することもできている。また、日々の学習のふりかえり、連絡帳や音読の宿題の録音などに活用するだけでなく学習アプリを導入し隙間時間などに自主的に学習している。また、視聴覚部を中心にルールについても話し合っている。 取り組み内容② 専科や教科担任制・SSS の活用で、業務内容が減り、教材研究に充てる時間が持てるようになった。その結果勤務外時間を確実に減らすことができている。会議の回数は少ないし、職員会議も前もって案件を読んでおくことで、スムーズにできている。年間を通した大きな行事の検討をする機会をもって、さらに行事の精選を図る。		

年度末への改善点

取り組み内容①

使用する頻度が増えることでネットリテラシーや情報モラルの新たな問題が出てきた。都度、部会を開き問題に対応していく。教職員へアンケートを実施し勉強会を行い ICT スキルの向上を図る。

取り組み内容②

来年度の行事について見直す機会を作り、行事の精選を図る。